

連載コラム

～ コーチングコミュニケーションが人を育てる ～ <第4回>

最近の道路には赤や黄色の落ち葉が目立って来ましたね。

皆さま、こんにちは(^o^)

コーチング研修会社ドリームフィールドの阿部侑生です。

今回は「コーチングで一番大切なこと」をお話したいと思います。

実は11月から、塩釜市内の中学校にお邪魔して生徒のみなさんや保護者のみなさん、

そして教職員のみなさんへコミュニケーションのお話をさせていただいています。

生徒さんや保護者のみなさん、学校の先生方との出会いの中から

たくさんのことを学ばせて頂いております。私にとって本当に貴重な経験です。

その中で感じることは、保護者のお父さんやお母さんは、

お子さんとのコミュニケーションにとっても悩んでいらっしゃる。

思い通りになかなかコミュニケーションがとれず、この先のことを心配されているようです。

そんな時、私はこんな話をすることがあります。

「あなたのお子さんは絶対大丈夫！！何故かという彼らはすでに人生最大の困難を乗り越えてきているすごい人だからです。その困難とはお母さんのおなかの中から生まれてくる時です。赤ちゃんは産道を通り抜けて生まれてきますが、その産道をとおりぬける時、赤ちゃんに一体どれくらいの圧力がかかっているかご存知ですか？答えは1.5トンです。乗用車1台分の重さです。赤ちゃんは頭蓋骨をゆがませ、激痛に耐えて、生まれてくるのです。とんでもなくすごいことだと思いませんか。だから、信じてあげてください。彼らはすでに大丈夫で、ものすごい人だということを。」

この話に保護者の皆さんはとてもびっくりされるんですね。

相手のことを信じきる心の態度を「在り方」と呼ぶのですが、

これこそコーチングにおいて一番重要なのです。(先月号のコラムの〇〇〇の答えは「在り方」です)

ですから、親に「あなたなら大丈夫！」と言われ続けた子どもは大丈夫になるのです。

人は扱われたように育ちます。

だから保護者のみなさまには、どんな時でも子どもを信じ続ける在り方(心の態度)を

持ち続けて欲しいのです。親から信頼されている子どもは、頑張らずにはいられますからね。

ちなみに、私の娘が入っているスポーツ少年団の監督はとてもマイナス言葉が多いということを」前回のコラムに書きました。私から見てもスゴイです(-_-)。

しかしある日、娘は私にこういいました。

「監督はいつもすごく怒っているけど、今日の試合の時に、私には監督の心の声が聞こえたの」

気になった私は、

「え？どんな心の声だったの？」と聞くと、

娘は、

「『今日は6年生の最後の試合だから絶対に勝ってほしいなあ〜』ってね。怒鳴っているけど、私にはそう言っているように思ったんだ。」・・・と娘。

監督の「在り方」に気づいているからチームの子どもたちは罵声を受け取れている。子どもってすごい。大人を良く見ているなあと思いました。

よかったらぜひ今日から心の在り方を試してみてください。大変な時もあるかと思いますが、必ず子どもの自信につながるはずです。「教育」は「共育」だと割り切って(笑)、ともにがんばりましょう！

★今月のポイント★

「コーチングは在り方を大切にすることコミュニケーション」

プロフィール

阿部 侑生（あべ ゆき）

ドリームフィールド代表。

文部科学省認可（財）生涯学習開発財団認定プロフェッショナルコーチ。

フリーアナウンサーとしてミヤギテレビ「OH！バンデス」（95～04）等、レギュラー出演、その後、ビジネスコーチとして独立。

「コミュニケーションスキルの向上」「自発的な部下の育成」

「子どものやる気を引き出すコーチング」「人生を変えるスマイルパワーについて」等をテーマにしたコーチング研修、コミュニケーション研修講師として活動中。

経営者、起業家へのパーソナルコーチングも行っている。